

お出かけしてみませんか？

県内のおすすめスポット

神奈川県内には数多くの神社仏閣があり、どれも魅力的ですが、その中からいくつかピックアップしてみました。
年末年始のお参りやパワースポット巡りはいかがでしょうか。



寒川神社(さむかわじんじや)

<http://samukawajinja.jp/>

約千五百年余の歴史を有する神社であり、古くより八方除の守護神として信仰されています。遠方で参拝できない方のために郵送によるご祈禱も受け付けています。



住 所 高座郡寒川町宮山3916

アクセス JR相模線「宮山」駅から徒歩10分

拝観時間 6時～日没(閉門) (年末年始の特別期を除く)

休 日 なし **拝 観 料** なし



弘明寺(ぐみようじ)

<http://www.gumyoji.jp/>

高野山真言宗の寺院であり、堂々とした佇まいを見せる横浜最古の寺です。本尊の木造十一面観音立像(通称「弘明寺観音」)は、国の重要文化財に指定されています。門前から続くレトロな弘明寺商店街の散策も楽しめます。



住 所 横浜市内弘明寺町267

アクセス 京浜急行線「弘明寺」駅から徒歩1分、
横浜市営地下鉄「弘明寺」駅から徒歩5分

拝観時間 8時～17時(閉門) **休 日** なし

拝 観 料 大人300円(本堂内陣で拝観する場合)



川崎大師(かわさきだいし)

<http://www.kawasakidaishi.com/>

厄除けで有名な川崎大師は、真言宗智山派の大本山であり正式には「平間寺(へいけんじ)」と言います。参道に並ぶたくさんのお店も名物となっています。



住 所 川崎市川崎区大師町4-48

アクセス 京浜急行線 大師線(JR川崎駅から京急川崎駅で乗り換え)
「川崎大師」駅から徒歩8分

拝観時間 [4～9月]5時30分～18時
[10～3月]6時～17時30分(年末年始の特別期を除く)

休 日 なし **拝 観 料** なし



伊勢山皇大神宮(いせやまこうたいじんぐう)

<http://www.iseyama.jp/>

天照大御神を祭神とする、「関東のお伊勢様」と呼ばれる格式高い神社であり、境内には清々しい空気が満ちています。桜木町駅から坂道と階段を上り、みなとみらい方面を見下ろす場所にあります。



住 所 横浜市内西区宮崎町64

アクセス JR・横浜市営地下鉄「桜木町」駅から徒歩10分、
京浜急行線「日ノ出町」駅から徒歩10分

拝観時間 9時～16時(ご祈禱の受付)

休 日 なし **拝 観 料** なし



円覚寺(えんがくじ)

<http://www.engakuji.or.jp/>

北鎌倉駅近く、鎌倉ならではの自然に囲まれた、臨済宗円覚寺派の大本山です。座禅会も開催されていますので、お問い合わせのうえ挑戦してみたいいかがですか。



住 所 鎌倉市山ノ内409

アクセス JR横須賀線「北鎌倉」駅から徒歩1分

拝観時間 [3～11月]8時～16時30分 **休 日** なし
[12～2月]8時～16時

拝 観 料 大人300円、小人100円



ともにあゆむ

避難されている方々同士がつながり、語り合い、共にあゆむことを目指して。

2014
第4号
12-1月

復興支援員さんのご紹介(大熊町)

神奈川県で活動する団体のご紹介

12～1月の交流ひろば

活動報告

つなげる・つながる



発行者: かながわ避難者と共にあゆむ会

【活動拠点】〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町2-24-2 かながわ県民活動サポートセンター
Tel : 045-312-1121(内線4142) [受付時間: 午後1時～5時(日・祝日を除く)] Fax : 045-312-1862

【連絡先】〒231-0011 横浜市中区太田町4-47 コーワ太田ビル7F「かながわ避難者と共にあゆむ会」宛
メール: info@hinansha-shien.net ホームページ: <http://hinansha-shien.net/>

【協力】神奈川県、かながわ避難者支援会議

広報誌「ともにあゆむ」発行は、かながわボランティア活動推進基金21協働事業負担金(ボランティア活動補助金)対象事業です。



■活動支援金のお願い

私たちの活動をサポートしてくださる方からの活動支援金(1口1,000円)を受け付けております。ぜひ、ご協力ください。

【ゆうちょ銀行】
振替口座 00250-7-101771
加入者名: かながわ避難者と共にあゆむ会

かながわ避難者と共にあゆむ会
2013.3

復興支援員さんのご紹介



第1回：大熊町

2014年7月17日、大熊町コミュニティ支援関東事務所（梨の実スペース）が、さいたま市浦和区にオープンしました。8月には初めての交流会「大熊民話よみかせ・紙芝居＆お茶会」を開催しました。そして、9月には第2回交流会として、千葉で梨畑を再開された町民の「梨屋さんの梨を味わうお茶会」を開き、お越し頂いた町民の皆さん同士の親睦の場となるよう、心を込めてつくりあげました。

大熊町復興支援員は、町民の絆づくりを軸に、サロン開催や町民企画をつくっていく方針で活動しています。関東駐在の3名は、関東全域を担当しており、今年度前半は調査活動をメインに、各都県の避難者支援状況の把握に注力しています（町民へのヒアリング、各都県の連絡会議・イベントへの出席、支援関係者へのヒアリング、アンケート調査など）。11月以降、これらの結果を元に現状のニーズを反映した事業計画を作成する予定です。ぜひ多くの皆さんの声をおきかせ頂ければと思います。

これまでのヒアリングでも多くの声があがっていますが、大熊の町民が同じ地域にいるのかいないのか分からない人も多い中で、町民同士の絆の輪を広げ『心の復興』を目指していきたいと考えています。

牟田麻起子さん

（大阪府豊中市出身）

「現在、埼玉・神奈川・東京・千葉・栃木・群馬には、約1430人の大熊町民の皆さんがいらっしゃいますが、そのうちの約210人が神奈川にお住まいです。大熊町復興支援員は、町民の皆さんの絆づくりを、これまで活動してこれられている支援関係者の皆さんと連携しながら、サポートしていきたいと思っています。県外に避難されている皆さんの“ふるさとを愛する心”をつないで、関東圏から、大きな絆の輪をつくっていききたいと思っています。」



土田功光さん

（東京都八王子市出身）

「多くの町民や支援関係者の方とお会いし、お話をする中で、避難者の現状やこれからの道の険しさを知れば知るほど、思わず「う〜ん」と唸ってしまう自分がいます。でも、そんな時、聴こえてくる町民の前向きな言葉、笑い声、そしてサポートする皆さんのひたむきな姿勢が、自分の中のモヤモヤを払ってくれるのです。お一人おひとりときちんと向き合い、ともに歩みを進めていきたい、あらためてそう感じています。」



星川美智子さん

（大熊町下野上出身）

「生まれて半世紀近い時間を大熊町で過ごしてきました。震災後、夫をはじめ家族はバラバラに住んでいますが、パートとして勤めた川口市社協での2年余りで得た元気を糧に、この仕事を「自分の中の復興」にしたいと思っています。以前のような住民同士のつながりや、昔のような活気が戻るように一緒に少しずつ前進することができればと思っています。ぜひ気軽に声をかけてください（^^）」



【お問い合わせ】

大熊町コミュニティ支援関東事務所 「梨の実スペース」

さいたま市浦和区仲町2-15-4 アイリーセブンコート1階
TEL:048-711-7135

団体紹介

とどろき学習室・よこはま学習室

この2つの学習室は、東日本大震災の影響で避難生活を送っている中高生を対象に、無料の学習支援を行っています。「とどろき学習室」は川崎市の武蔵小杉駅、「よこはま学習室」は横浜市の横浜駅の近くにあり、それぞれ週2回、県内各地から子どもたちが通っています。子どもたちに勉強を教えるのは、大学生。所属する大学も学部もバラエティーに富んでいるため、子どもたちが将来の進路を考えるうえで参考になる話が聞けるのも強みです。

学習室では、一般的な学習塾のように学年別・レベル別に教室形式で授業を受

けるのではなく、1つの部屋で車座になり、生徒2人に先生1人ほどの割合で、それぞれの勉強を進めます。きめ細かく目配りができると同時に、違う年代の子どもたちの様子も目にする事で勉強だけではないさまざまな情報が自然に得られ、社会性も育まれるのではないのでしょうか。先生も生徒も、いわば大家族のような存在かもしれません。

避難生活を送っているとはいえ、子ども時代ならではの楽しい思い出もたくさん作ってほしいという考えから、学習室では、ピクニックやクリスマス会、3月には卒業生向けのお別れ会も催しています。これも、大学生が子どもたちのために熱心に企画を考えています。

設立までの経緯と今後

代表を務める、香川大学地域連携戦略室特命准教授／慶應義塾大学メディアデザイン研究所リサーチャーの鈴木健大さんは、東日本大震災の発災後、川崎市が設けた一時避難所「とどろきアリーナ」にボランティアとして通ううち、子どもたちの居場所がないことに気付き、勉強するスペースを作りたいと考えました。当時、仕事をしながら通っていた大学の先生方の協力を得て、大学生が子どもたちの勉強をみるという形で、避難所内で週1回の学習支援を始めました。その後、避難所は閉鎖されることになりましたが、県



内の子どもたちが通いやすい場所を探し、現在武蔵小杉と横浜で継続しています。さらに2014年11月には、香川県高松市に「せとうち学習室」も開設されます。

震災から3年半を過ぎても、学習室に来る子どもたちには、家計が苦しく塾に通えないなど、さまざまな事情があります。避難生活だけが原因とは言いきれませんが、周りの子どもに比べて勉強が遅れているケースがあるようです。まだ数年は学習支援が必要だと、鈴木さんは考えているそうです。

学習室では、さまざまなルートを通じてチラシを配布するなど、学習支援を必要とするご家庭への周知を試みっていますが、このような支援の存在をご存じない方もまだまだいらっしゃるはず。お心当たりがあれば、ぜひ知らせていただければと思います。また、子どもたちの学年や進路に応じて必要な書籍を多数購入するため、ご家庭でお使いにならない図書カードも募集しています。どうぞ学習室を応援してください。

【お問い合わせ】 香川大学／慶應義塾大学
鈴木健大（すずきたけひろ）

メール：shonancafe134@gmail.com
TEL：080-5645-6924

交流ひろば

12~1月

避難されている方同士が語らい、
交流を図り、またふるさとの
情報にも触れられる
イベント・カフェをご紹介します。

※問い合わせはそれぞれの主催団体までお願いいたします。

年末年始 東北グルメフェア

12月6日(土) 10:00~19:00
12月7日(日) 10:00~16:00

岩手県、宮城県、福島県の名産品をセレクトし、会場で展示販売します。お世話になった方へのお歳暮やギフトに、お正月のご馳走に東北のグルメはいかがですか。当日のお持ち帰りの他に、ご注文での指定場所への配送や、県民サポートセンターへのお取寄せも承ります。

場所 かながわ県民センター15階
横浜市神奈川区鶴屋町2-24-2(横浜駅西口より徒歩5分)

参加対象 どなたでも 参加費 無料

主催: かながわ311ネットワーク TEL:045-312-1121(内線4140)
電話対応時間: 火水金の13時~19時、その他の時間は
info@kanagawa311.net までメールで問い合わせください。

共催: かながわ避難者と共にあゆむ会、
かながわ「福島応援」プロジェクト、
他、かながわ災害救援ボランティア活動支援室登録団体(予定)

神奈川散歩カフェ「味の素 川崎工場見学と川崎大師散策」

12月18日(木) 9:00集合、14:00頃解散

味の素 川崎工場を見学します。川崎工場では、味の素、ほんだし、Cook Doの製造が行われており、安心・安全に配慮した原料・製造工程・品質管理など、製品ができるまでをご覧ください。工場見学の後は、「厄除け大師」こと川崎大師(平間寺)を訪ねます。工場見学に人数制限があるため、事前にハガキでお申し込みください。定員になり次第、締め切ります。

場所 川崎駅(JR東海道線/JR京浜東北線/JR南部線/京浜急行線)
「JR川崎駅」改札口 集合(定員30名)

参加対象 東日本大震災の影響で避難されている方

参加費 無料(ご飲食代金が発生する場合は各自でご負担ください)

主催: かながわ避難者と共にあゆむ会
TEL 045-312-1121(内線4142) 電話受付時間: 午後1時~5時(日・祝日を除く)

協力: NPO法人神奈川県歩け歩け協会

2014クリスマス会

12月6日(土) 12:30~15:00

今年もクリスマス会を開催します。飲みものと軽食をご用意し、ステージではマジックや歌、「一芸披露」もあるかも? どうぞ楽しいひとときをお過ごしください。

場所 神奈川県社会福祉会館 2階ホール
横浜市神奈川区沢渡4-2(横浜駅西口より徒歩15分)

参加対象 東日本大震災の影響で避難されている方

参加費 一人300円/中学生以下無料

主催: かながわ避難者と共にあゆむ会
TEL 045-312-1121(内線4142) 電話受付時間: 午後1時~5時(日・祝日を除く)

かながわ避難者交流世話人会

協力: どんぐりの会、かながわ「福島応援」プロジェクト、かながわ寄りそいたい

後援: 神奈川県社会福祉協議会

どんぐりの会

第2木曜・第4水曜 9:30~14:00

12月11日(木)・24日(水)・1月8日(木)・21日(水)

東日本大震災の影響で避難している同士が集まって気兼ねなくおしゃべりしながら、趣味のもののづくりを楽しんでいます。12/24はクリスマス企画としてプレゼント交換会を行います。予算500円でプレゼントをお持ちください。

場所 かながわ県民センター15階
横浜市神奈川区鶴屋町2-24-2(横浜駅西口より徒歩5分)

参加対象 東日本大震災の影響で避難されている方

参加費 1回200円

主催: お問い合わせ先: どんぐりの会
TEL 080-5058-7310(小園) 090-4551-1109(大橋)

ふるさとバス 第6便

2015年1月10日(土)~12日(月・祝)

10日7:30集合、12日19:30頃解散

2泊3日で、横浜からいわき市・郡山市を結ぶバス便です。1日目には、いわき市で開催される「双葉町ダルマ市」に参加し、地元の方と一緒に交流しお手伝いしていただきます。2日目のダルマ市またはモデルルーム見学、3日目の仮設住宅での交流会は自由参加です。行程等について詳しくはお問い合わせください。

参加対象 参加対象: 福島県から避難されている方とそのご家族

参加協力金 片道・往復にかかわらず1人1,000円(中学生以下無料)

※事前のお申し込みが必要です。 ※集合前と解散後のご移動、行程中の宿泊、食事代に関しては、ご本人の手配・ご負担となります。なお、いわきでの宿泊先についてはお問い合わせください。

主催: お問い合わせ先: かながわ避難者と共にあゆむ会
TEL 045-312-1121(内線4142) 電話受付時間: 午後1時~5時(日・祝日を除く)

12月 師走

月	火	水	木	金	土	日
1	2	3	4	5	6 6 7	7 7 8
8	9	10	11 11 12	12	13 13 14	14
15	16	17	18 18 19	19	20 20 21	21
22	23 23 24	24 24 25	25	26	27 27 28	28
29	30	31				

1月 睦月

月	火	水	木	金	土	日
			1 1 2	2	3 3 4	4
5	6	7	8 8 9	9	10 10 11	11 11 12
12 12 13	13	14	15 15 16	16	17 17 18	18
19	20	21 21 22	22	23	24 24 25	25
26	27	28	29	30	31	

2014クリスマス会

年末年始 東北グルメフェア

どんぐりの会

ふるさとバス第6便

神奈川散歩カフェ

かながわ・あづまっぺお茶っこ会 in 相模原

※日時等は変更される場合があります。お問い合わせはそれぞれの主催団体までお願いいたします。

神奈川散歩カフェ「崎陽軒 横浜工場見学と鶴見川散策」

2015年1月15日(木) 9:00集合、14:00頃解散

横浜名物「シウマイ」を生産する崎陽軒 横浜工場を見学します。崎陽軒の歴史や製造工程の説明ビデオを見た後、展示とシウマイの生産工程を見学できます。できたてのシウマイ・横浜月餅の試食もあります。工場見学の後は、鶴見川を散歩しながら日産スタジアムを通過して新横浜駅に戻ります。工場見学に人数制限があるため、事前にハガキでお申し込みください。定員になり次第、締め切ります。

場所 新横浜駅(JR横浜線/横浜市営地下鉄ブルーライン)
「JR新横浜駅」改札口 集合(定員30名)

参加対象 東日本大震災の影響で避難されている方

参加費 無料(ご飲食代金が発生する場合は各自でご負担ください)

主催: かながわ避難者と共にあゆむ会 TEL 045-312-1121(内線4142) 電話受付時間: 午後1時~5時(日・祝日を除く)

協力: NPO法人神奈川県歩け歩け協会

かながわ・あづまっぺお茶っこ会 in 相模原

2015年1月24日(土) 13:00~15:00(予定)

気軽におしゃべりできる「お茶っこ会」を相模原市の相模大野で開催します。横浜駅までは遠くてなかなか…という皆様、どうぞお誘い合わせのうえお越しください。ファンケル様のご協力でハンドマッサージコーナーも設ける予定です。詳しくはチラシでご確認ください。

場所 ユニコムプラザさがみはら マルチスペース

相模原市南区相模大野3丁目3-2(小田急線「相模大野」駅北口より徒歩3分)

参加対象 東日本大震災の影響で避難されている方

参加費 無料

主催: かながわ避難者と共にあゆむ会 TEL 045-312-1121(内線4142) 電話受付時間: 午後1時~5時(日・祝日を除く)

協力: かながわ避難者交流世話人会、株式会社ファンケル、かながわ「福島応援」プロジェクト

活動報告 第5回 ふるさとコミュニティinかながわ

第5回を迎えたこのイベントは、今回初めて神奈川県との協働事業として開催し、過去最大の110名のご来場者をお迎えしました。来場者アンケート（回収63件）によると、避難元は岩手県2名、宮城県が6名、その他は福島県の方々でした。また、現在のお住まいは神奈川県だけでなく、東京、千葉、埼玉からもご来場いただきました。

メインステージは、福島県双葉町の標葉せんだん太鼓保存会の皆さまによる太鼓の披露です。避難されている方を励ます太鼓の演奏に多くの方が目に涙をうかべながら聞き入っていました。演奏終了後もアンコールの声がやまず、アンコール曲含めて3曲ご披露いただきました。また震災直後から支援活動を続けている榊原有菜さんを中心とした音楽ユニット「かなりやとうばん」が、すばらしいハーモニーで日



本の叙情歌を歌い上げるミニコンサートをおこないました。エンディングでは会場が一体となった合唱になりました。また、お笑い芸人のつねむねさん、ko-1（コーイチ）さんが出演され、会場中が大きな笑い声につつまれました。

2階ギャラリーで行われた「ふるさと作品展」では、避難されている方々が日々の思いを込めて制作された作品を展示しました。神奈川を中心に活動されている「どんぐりの会」と、いわき市で活動されている「和布細工工房ほのぼの」の見事な作品の数々に、多くの来場者が感心して見入っていました。横浜に本社を置く株式会社ファンケルからは、ハンドマッサージ、ネイルサービス、青汁試飲のご提供があり、ご来場者の人気を集めていました。その他のコーナーも、ふるさとの言葉と笑顔であふれ、避難されている方同士や地元自治体の職員と盛んな交流が行われました。

次回のふるさとコミュニティは平成27年3月28日（土）、波止場会館（横浜市中区）での開催を予定しております。どうぞご予定ください。



オール福島交流懇談会

11月8日、神奈川県社会福祉会館で「オール福島交流懇談会」を開催しました。肌寒い天気の中、神奈川県内に避難されている13名の方々にお越しいただきました。福島県東京事務所、神奈川県安全防災局を始めとする自治体職員と復興支援員の方々、神奈川県社会福祉協議会、横浜弁護士会からもご参加いただき、各テーブルを回って皆様と積極的に対話されていました。また今回、南相馬市小高区のご出身で民謡の全国大会で優勝されたご経験もおありの藤澤シゲノさんに「相馬流れ山」などの民謡をご披露いただき、素晴らしい歌声にアンコールを求める声も上がりました。

お集まりいただいた皆様同士の歓談も盛り上がり、「忘年会をしよう」という話題がトントン進んだテーブルもありました。今回お越しになれなかった皆様からも「私たちも忘年会、

新年会をしたい」というお声があれば、あゆむ会がサポートいたしますので、是非ご相談ください。



つなげる・つながる

ふるさとをつなぐ伝統行事



あ ゆむ会では、避難生活を送られている皆様のつながりづくりを目的として、「ふるさと会」の運営サポートなどの形で呼び掛けを行っています。同時に、震災により活動がままならなくなっている地域の伝統芸能や行事にも目を向け、「ふるさとコミュニティinかながわ」にお招きするなどしています。皆様の地元の伝統芸能など、交流イベントにご出演いただける方をご存知でしたらぜひ教えてください。

また、神奈川という枠にとどまらず、機会があれば他の地域に避難されている方々と交流することも大切だと考えています。2013年から実施している「ふるさとバス」事業では、現地の応急仮設住宅や交流スペースを訪問する機会を設けています。2015年1月に運行する「ふるさとバス第6便」では、ご乗車いただく皆様とともに双葉町ダルマ市（1月10日・11日）に参加します。

江戸時代から続く双葉町ダルマ市は、震災後、双葉町の消防団有志で結成した「夢ふたば人」が中心となり、いわき市の南台仮設住宅のイベント広場で開催されています。2014年に開催された際には、市内外から多くの方が訪れ、縁起物のダルマや食べものの露店がずらりと並び、奉納神楽や民俗芸能の発表、威勢のよい子ども神輿やダルマ神輿、標葉せんだん太鼓の演奏などで盛り上がったそうです。

あゆむ会スタッフもとても楽しみにしています。一緒にいかがですか？ ふるさとバスのご参加受付は先着順ですので、お早めのお申し込みをおすすめします。

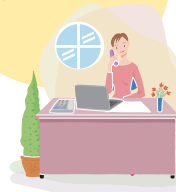


連絡先

かながわ避難者と共にあゆむ会

〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町2-24-2 かながわ県民活動サポートセンター
Tel:045-312-1121（内線4142）〔受付時間：毎週月～土曜日13時～17時〕 Fax:045-312-1862

お聞かせください



「ともにあゆむ」は隔月発行、次号は1月末を予定しています。今後も内容をますます充実させていきたいと考えています。そのために、みなさまのお力添えをいただけませんか。次号では、皆様の年末年始の過ごし方についてまとめた、楽しい記事にしたいと考えています。どのような過ごし方をされるか、年末年始に食べるお料理など、ぜひ教えてください。

写真や絵手紙、ちぎり絵などを、掲載させていただきますか？

データをメールでお送りいただくか、現物をご郵送ください。作品の返却を希望される方は、その旨を明記してください。
※掲載する作品は、ご本人様の作品に限らせていただきます。

〒221-0835
横浜市神奈川区鶴屋町2-24-2
かながわ県民活動サポートセンター
レターケース339
かながわ避難者と共にあゆむ会
「ともにあゆむ」係



今月の表紙

今月は大橋悌一さん作、「奥州水沢くくり雛」を題材にした切り絵をご紹介します。切り絵とは、下絵を基に黒い紙を切り抜き、薄い色の下紙に貼り付ける技法です。黒の生み出す力強さと、彩色や千代紙で加えた艶やかさが印象的です。